

令和3年度 稲築東中学校 学校評価 報告書

令和4年3月8日

【学校教育目標】
確かな学力と豊かな心を身につけ、 たくましく生きる生徒の育成

【本年度の重点目標】
<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣づくりと家庭学習の充実 ・長期欠席、不登校生徒への適切な対応 ・自尊感情及び規範意識の向上を図る道徳教育の推進 ・特別に支援を要する生徒への指導の充実 ・郷土を愛する心の育成 ・人権教育等を通して豊かな心の育成

4 大変よい 3 よい 2 努力を要す 1 すぐに改善

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
組織・運営	学校経営	学校教育目標の具現化に向けて、教職員一人一人が経営方針を理解し、組織的・協働的・意欲的に学校経営に参画する。 <結果> 昨年より多くの項目で評価が下がっているが、各学年、各分掌ごとの取組が充実してきており、1学期より上昇している。	3.1 3.0 ・職員が見通しをもって企画立案できるように「実績」を活用することは大切であるとする。 ・管理職と職員との話し合いを増やし、方向性の共有や様々な意見を取り入れることが必要ではないかと思います。	・年間実績を作成し、活用することは主務者が見通しをもって企画立案等ができることに繋がる。また、異動に伴い主務者が変わったとしても対応できるものであることから、確実に実施していく。 ・職員室内外に注目して、職員を通して情報が入りやすい雰囲気づくりに努めていく。
	校務分掌	校務分掌組織の活性化を図るために、P-D-C-Aサイクルに基づいたマネジメントを推進し、定期的な評価と改善を行う。 <結果> 各係長が中心となって取組ごとに、または学期末の分掌部会の中で評価・改善を行っているが、生徒の実態やコロナ感染症対応を考慮した企画運営が必要だと考える。	3.0 3.0 ・PDCAサイクルの日常化が大切であり、ロードマップの作成と活用があるといいと思います。	・「だれが」「いつまでに」「何を」「どのように」取り組んでいくべきかを整理させる必要がある。その際、前年度の取組の成果と課題を生かしたものとなるよう指導助言を与えていく。
	総合所見	○本年度の重点目標に対して、確かな学力を育てることがまだまだ不十分である。今年度もいろいろな手立てを考えてきたが、今後はさらにその点に重点を置いた取組を考えていきたい。 ○職員一人一人が、自分の係の取組が学校の重点課題の解決につながるといった意識を持ち、プラスワンの工夫を加えるようにする。また、校務分掌や学校評価において全職員の共通理解のもと、P-D-C-Aサイクルを生かし、教育目標の具現化、重点目標の達成を目指す。 ○全教職員で意見を出し合って、今後の状況に柔軟に対応し、教職員が生き生きと活動できるように管理職がリーダーシップを発揮していく。		

* 自己評価の数値について 上段数値:2学期 下段数値:1学期

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
学力向上		生徒の実態に基づいた学習指導体制や授業改善に努め、学力向上プランに基づいた指導方法の工夫・改善を行う。		
		<p>〈結果〉</p> 定期考査後に教科部会を実施し、今後の対応等について協議をしているが、学力テスト等の結果を見ると学力が確実に定着しているとはいえない。	3.2 2.9 <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上のために、朝学習の時間確保、ノースマホ・ノーゲームデイの設定をされていることは有意義だと思います。 ・家庭学習については、保護者への働きかけを工夫する必要があると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度2学期からスタートした朝学習については、学力向上委員会の中で取組の改善等について検討している。今後は、生徒の意欲面を向上させるための手立てや教科担任と学年教員との連携に基づく取組を推進していく。 ・生徒が主体的に取り組む授業を展開するためにも「授業スタンダード」に基づいた授業改善に継続して取り組んでいく。
	少人数指導	少人数指導や個に応じた指導を行い、基礎・基本の学習内容の定着を図る。 <p>〈結果〉</p> 数学科、英語科においてC・D層の生徒に対して個別対応を実施。生徒も集中し授業に臨む回数が増えてきている。	3.3 3.1 <ul style="list-style-type: none"> ・数学科、英語科における個別対応により、成果が出たことは大変良かったと思います。他の教科でも可能なら実施していただきたい。 	少人数指導や個に応じた指導法の工夫改善はC・D層の生徒の学ぶ意欲の向上や、基礎・基本の定着に繋がることから今後も計画的に実施する。また、具体的な到達目標を明確にし、繰り返し指導を徹底することで、確実な基礎・基本の定着を図る。
情報機器の活用	情報機器(パソコン・電子黒板等)を活用した授業実践を工夫する。 <p>〈結果〉</p> 本年度よりタブレット(カスタ)の導入に伴い、英語科、社会科、理科の授業で活用している。特に英語科では学習ソフト(ミライシード)を活用することで生徒の学習意欲の向上にもつながった。	3.1 3.0 <ul style="list-style-type: none"> ・情報支援室との連携を丁寧をお願いします。 ・小、中それぞれの取組を交流するのもいいと思います。 ・使用方法や指導方法など大変だと思いますが、今の時代にあった対応をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの有効な活用について計画的に校内研修に取り組む必要がある。その際、教育委員会情報支援室と連携しながら進めていきたい。また、タブレット活用に関する研修にも積極的に参加させ、その内容を還元する必要がある。 ・教師・生徒に対する情報モラルに関する学習を更に強化する必要がある。 	
総合所見	<p>○今後も、基礎・基本の定着を目指して、授業や定期考査、実力テストでの実態把握のもと、朝学習や補充学習、1人1台端末の活用、学習相談などを通して、個に応じた指導の充実に努めていきたい。</p> <p>○継続して研究授業、自主研修等を通して教師の授業力の向上を図りたい。特に1人1台端末の持ち帰りとインターネット学習支援ソフト「ミライシード」の活用を積極的に推進していく。</p> <p>○本校の課題である家庭学習の習慣化を図るために、授業と家庭学習を一体化させるための予習・復習課題などを工夫していく。</p>			

* 自己評価の数値について 上段数値:2学期 下段数値:1学期

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
積極的生徒指導	規範意識	<p>規範意識の醸成に向けて、規律や秩序を大切にし、よりよい人間関係づくりをめざした積極的生徒指導を行う。</p> <p>〈結果〉 道徳、学活、そして人権学習を通して、望ましい生活態度や人間関係等について問題提起を行っているが、継続的な指導が必要である。</p>	<p>2.8 2.8</p> <p>・義務教育学校開校に向けて、小中の教職員で共通理解を図ることが必要であると考えます。 ・学校、家庭、地域での挨拶やルールの遵守について規範が薄れているような気がします。継続的な指導をお願いします。</p>	<p>・人権教育や道徳教育の充実を図り、生徒および教職員の人権感覚を磨いていくようにする。 ・学級の係や生徒会活動を通して、一人ひとりが役割をもち、周りに貢献したり、責任を持てるようにしていく。</p>
	いじめ対策	<p>いじめの未然防止及び早期発見・早期対応に努める。</p> <p>〈結果〉 本年度のいじめ認知件数は5件。生徒指導部が中心となり、早期解決に努めた。今後も日常における生徒の言動に注意を払い、「いじめは絶対に許されない」ものとして組織的に対応していく必要がある。</p>	<p>2.8 2.8</p> <p>・日頃のからの小さな変化に気づくことが早期解決につながると思います。また、組織的な対応のために「報告・連絡・相談」の徹底をお願いします。</p>	<p>生徒にとって居心地のよい環境や雰囲気をつくることともに、よりよい人間関係を築く力が身に付く指導をさらに充実させ、いじめや不登校の未然防止に取り組んでいく。 ・早期発見・早期対応ができるように状況による支援体制を整えていく。</p>
	関係作り	<p>教育活動全般を通して、生徒間や生徒・教師間の人間関係づくりを図る。</p> <p>〈結果〉 本年度は体育会を通して、他者との関わりやリーダー性を培う機会ができたことは大変効果があったと考える。</p>	<p>3.1 3.0</p> <p>・体育会では感染対策を施しながら、生徒同士の「絆」が深まったり、リーダー性の育成に繋がったりすることができたと思います。 ・コロナ禍において、工夫されて学校行事を行っていると思います。</p>	<p>・生徒会活動や部活動で頑張っている生徒の姿を認め、主体的に取り組むことができるような支援を重ねていく。 ・総合的な学習の時間の活動を通して、生徒の自主性や主体性を高めていけるようにする。</p>
	生活習慣	<p>基本的な生活習慣の確立と生活態度の向上に努める。</p> <p>〈結果〉 本年度の不登校生徒8名 そのうち生活習慣の乱れが原因で遅刻・欠席してしまう生徒が4名 担任・副任による家庭訪問や関係機関のサポートもいたしながら、該当生徒及び保護者との関係が切れぬように対応している</p>	<p>2.8 2.8</p> <p>・子どもたちが「学校に行きたい」「学校に行って楽しかった」と思える取組を仕組んでいくことが大切だと思います。 ・PTAと連携し、生活習慣の改善に取り組む必要があると思います。</p>	<p>・楽しく安心して過ごすことができる学級づくりを進める。 ・定期的に生徒と相談できる時間を確保し、相談しやすい環境と人間関係づくりを進める。</p>
	総合所見	<p>○学校生活における決まりやルールの意義や意味について、道徳の時間や生徒会活動などの様々な機会をとらえて考えさせ、主体的に決まりを守る態度を養っていく。 ○定期的な教育相談だけでなく、いつでも相談できる体制や雰囲気づくりをしていく。また、小さな問題でも電話連絡や家庭訪問等を行い家庭との連携を密にし、教員同士の情報交換も行う。 ○朝のあいさつ運動や部活動などにおいて「気持ちのよいあいさつ」をすることの大切さを根気強く言い続け実践できるようにさせていきたい。形式的なあいさつではなく、時、場、相手に応じたあいさつができるよう教育活動の中で一緒に学ばせたい。 ○就寝時間やスマホ等の利用に関して保護者に啓発していく。また、生活習慣チェック等の取組を通して、生徒自身にも基本的な生活習慣の育成に向けた自覚を促していく。</p>		

* 自己評価の数値について 上段数値:2学期 下段数値:1学期

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
教職員の資質の向上	主題研修	<p>学力向上を目指し、組織的・計画的に主題研究を推進する。</p> <p>-----</p> <p>〈結果〉 本年度から「授業スタンダード」を確立し、その流れに沿った授業改善に取り組んだ。(2学期までに一人一実践の校内研の実施)</p>	<p>2.9</p> <p>2.4</p> <p>・義務教育学校開校に向けて、「授業スタンダード」の日常化を図っていく必要があるため、小中の取組を共有できればと思います。</p>	<p>・グランドデザインの柱の一つとなっている「書く活動」「話し合う活動」に向けた活動を意図的に仕組んでいく。</p> <p>・小中で確認した「学習規律」の取組の徹底を図り、生徒の学ぶ意欲の向上に努めていく。</p>
	一般研修	<p>教職員の指導力向上のための研修を計画的・組織的に取り組む。</p> <p>-----</p> <p>〈結果〉 服務規律に関しては通知文を活用しながら本校職員に対して注意喚起しているが、計画的に校内研修を実施できていない。生徒指導部、生徒支援部、研修部による独自の研修は計画的に実施した。</p>	<p>3.2</p> <p>3.2</p> <p>・社会的に法令順守がより求められる職業ですので、年間計画をしっかりと立てて実施して欲しい。</p> <p>・人材育成のためにはOJTが大切だと考えます。</p>	<p>・教職員の服務規律・法令遵守に関する研修・管理職からの指導を日常的に行い、不祥事防止に努めていく。今後も、危機管理意識を維持するため、危機管理マニュアルをもとにした校内研修会を計画的に実施する。</p>
	総合所見	<p>○主題研と関連させて、生徒が主体的に学習に取り組むような授業の工夫をさらに進めていく。また、「各活動」と「学び合い学習」による授業改善について、今後も学校研究課題と位置づけ、取り組んでいく。</p> <p>○人材育成のためには、仕事を任せた上での指導體制の充実、参加・参画意識の向上、自発的な研修の奨励を促す必要がある。また、校外での各種研修への受講・参加を校務分掌やライフステージに応じて奨励し、環流学習会等を通して組織的・協働的実践につなげていく。</p>		

* 自己評価の数値について 上段数値:2学期 下段数値:1学期